

●第3回ヘンデル・フェスティバル  
・ジャパン

ヘンデルの円熟期から晩年の作品に焦点を当てた、今年のヘンデル・フェスティバル・ジャパン（「コヴェント・ガーデンのヘンデル」の最終日を聴いた）。

前半はヘンデルの「合奏協奏曲集」作品6から2曲。現在欧州で研鑽中という渡邊孝と渡邊さとみほかの若手を中心とした、音楽祭専属キャンノンス・コンサートが、スピリットに富むと同時に繊細な造形感覚に溢れた情感豊かな演奏を聴かせた。

休憩後は題名役に米良良一を起用した、寓意的オラトリオ《ヘラクレスの選択》。シンフォニーでは三宮正満の伸びやかで豊かな音色のオーボエ・ソロが光る。野々下は「快樂」にしてはいささか理知的で知性的だが、張りのある明るい声に気品と女王然とした風格が漂う。波多野睦美の「美德」は第14曲のアリアが出色の出来栄え。特筆すべきは合唱で、「美德」の従者たちの歌う最後の2曲で新鮮味に溢れた力強い歌唱を披露した。

フレッシュな気概に満ちた合奏も含めて、ヘンデルのオラトリオの魅力を堪能した一タだった。（1月13日